研究主題 様式2-1

「仲間とともに、運動の楽しさや喜びを味わい、生活に生きる体育学習」を目指し、運動好きな児童を育てる。 ~「1日1回外遊び」で体力向上~

大分県由布市立挾間小学校

全校児童数	586 名(男子300名 女子286名)			
全クラス数	22	教職員数	45名	
体育専科教員訪問学校数 3校				
訪問校 谷小学校 ·西庄内小学校 ·塚原小学校				
体育専科教員名			江良 信司	

Plan:取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆社会体育等で運動をする児童とそうでない児童の、運動能力 の二極化を是正。
- ◆習い事の多さや広範囲な校区の影響のため、放課後における 友だちとの遊びを通しての運動時間の確保ができないこと への対応。
- ◆男女とも体力調査結果の全国平均を下回った種目から、柔軟性と持久力向上への対応。

2 取組の計画

- ①仲間と見合い教え合いをすることで、技のポイントが理解できる授業を実践し、体育好き、運動好きな児童を育てる。低体力層の児童も運動好きに(本務校/訪問校とも)
 - ・課題解決のための有効な場の工夫を行う。
 - ・見合い教え合いで仲間と関わらせ、技能を身につけさせ る。
 - ・有効な TT 指導のあり方を研究する。
- ②挾間町、庄内、湯布院への訪問指導で、体力向上プランの 実践の検証、有効な IT 指導や場の工夫、関わり合いによる 見合い・教え合い学習を進め、体育好きの児童を育てる。
- ③挾間小体育部会と市教研体育部会で、指導主事を招聘して の公開授業を開く。
- ④由布市体育主任会で一校一実践の情報交換を行い、由布市全体で体力向上を図る。

Do:実践内容

1 体育授業の工夫 (めあて&振り返りの定着)

(1)授業始まり

- ①学年の発達段階・個人の運動能力に応じた、サーキットトレーニング(屋外)・柔軟運動(体育館)の設定。
- ②単元に呼応した準備運動の設定。

(2) 授業の展開

- ①毎時間、「運動の技能」に限定した個人の目当てを待たせて授業に臨ませた。
- ②活動内容によって全員同じ目当てで取り組ませたり、 個人の技能レベルに合わせて複数の目当てから選択さ せたりした。

(3) 授業の振り返り

- ①ふりかえりを各自で行わせ、代表者に発表させた。
- ②教室での空き時間を利用し、振り返りを記録に残し、 次時につなげさせた。
- 2 実践授業での指導法の研鑽 (モデル授業の活用)
- (1) ファーストクラス授業では専科教諭がT1 で実

施。担任(T2)はタブレットで授業を撮影。

- (2) セカンドクラス以降の授業では担任が、専科教諭が 行った授業のタブレット動画と、指導案を参考に T1として授業を行う。
- (3)各クラスの授業動画を、全クラスの担任と専科教諭 でタブレットを介して共有し、より良い授業の構 築を行う。

3 外遊びの充実

(1) 遊具の開発・遊び場の設置

- ①竹馬のコースを作成し、障害物を設置することで、遊び を広げた。
- ②ミニバレーボールで遊ぶ場・時間の確保を行った。
- ③休み時間におけるドッジボール遊びの頻度を上げるた に、コートの用意を事前に行った。
- (2)「投てき力」向上を目的とした取り組み。
 - (1)ロープとバトンを使用した、遠投教具の設置を行った。
- (3) 自校・訪問校における「鬼ごっこ遊び」の普及
 - ①休み時間を利用して「セブンストレジャーズゲーム」「アイコンタクトゲーム」の普及活動を継続した。
 - ②訪問校で「セブンストレジャーズゲーム」「アイコンタクトゲーム」の普及活動を徹底した。

●工夫したこと(&苦労した点).

- ①授業時の目当ての持たせ方は、ホワイトボードを利用し視覚に も意識づけた。
- ②授業の振り返りは、「振り返りカード」を使用し、担任と協力 して継続的に取り組ませた。
- ③個人のタブレットを授業で活用させることで、児童に自身の演技・競技を即座に確認させることができた。

Check: 取組の成果

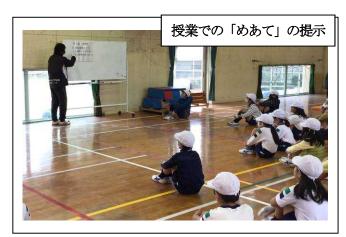
- ①教職員アンケートの「目当てを提示し、1 時間の内容と目標を 児童各自に確認させる」が一学期 95.5%⇒95.8% 二学期 81.8%⇒83.3%。体育授業に関しては両学期ともに100%達成。
- ②教職員アンケートの「目当てに対する振り返りを行う」が一学 期 66.0% 二学期末 65.5%。体育授業に関しては両学期とも に 100%を達成。
- ③児童アンケートの「休み時間に外遊びをする」が、1 学期末 83% ⇒2 学期末 87%と成果がでた。

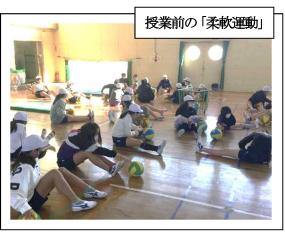
Action:今後の課題

- ①各クラス担任による、同一レベルでの体育授業実践を行うために、IT機器の積極的な活用。
- ②授業活動における児童の、効率的な IT 機器の活用方法の研究。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・外遊びを充実させることで、同学年・異学年間のコミュニケーション作りに役立った。
- ・サーキットトレーニングと柔軟運動を年間通して継続的に行 わせることで、全校が一つの目標のもと体育授業を行えた。















授業風景「長縄」





